

2022年10月5日

そばの茎が赤いのはなぜ？

秋の紅葉と味覚に合わせて、政府による全国を対象とした観光需要喚起策「全国旅行支援(全国旅行割)」が、今年11日から年末にかけて実施されることになりました。これに伴って、新型コロナウイルス感染症が再拡大しないことを願うばかりです。

また、秋と言えば芸術の季節、『芸術祭10月大歌舞伎』が昨日4日から歌舞伎座で始まりました。今年の演目(第一部)では、『鬼揃紅葉狩(おにぞろいもみじがり)』が演じられます。長野県の北西部にある戸隠山(現:長野市)が舞台となっている物語で、紅葉狩りで出合った更科なる女性が実は戸隠の鬼女で、主人公の平 維茂(たいらのこれもち)がこれを退治するという一大スペクタクル。歌舞伎としては明治期にできたものですが、元は室町時代の能の作品『紅葉狩』だそうです。実物の紅葉の前に舞台で楽しむのも一興かも…。

さて、この旧:戸隠村は、『平成の大合併』で隣接する鬼無里村(きなむら)などと一緒に長野市に合併されました。鬼女のいた戸隠村の隣が「鬼のいない里」というもの面白い話ですが、共に現在では過疎地域となっています。また、戸隠・更科・鬼無里と言えば「そば」処。全国のそば生産量4480万ト(2020年)の内、約43%は北海道ですが、第二位が長野県となっており、戸隠や鬼無里など北信地方は長野県有数のそばの生産地です。因みに、白い花を咲かせるそばの茎が赤いのは、鬼の血を吸ったからという昔話が「あまのじゃく」で有名な『瓜子姫(うりこひめ)』の中に登場します。もちろん、植物学的にはアントシアニンという色素があるからで、秋まきそばに見られるそうです(農文教『そだてて遊ぼう8 そばの絵本』)。

この季節、長野県の南信地方の箕輪町では、故:氏原 暉男信州大学教授がヒマラヤ地方から持ち帰った「高嶺ルビー」で赤く染まったそば畑の風情を楽しむことができます。



校長 石飛 一吉